

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 若狭町地域公共交通会議

平成19年 8月 1日設置

フィーダー系統 令和2年 7月 8日 確保維持計画策定

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
利用者との意見交換などで出る要望などで応えられる部分の対策を講ずる等、相互理解を深める。	要望の強かった隣接市にあるJR小浜線「新平野駅」を運行エリアに加え、利便性の向上を図った。	今後も積極的に利用者等の意見収集を行い、対応を考えていくことで、利用者との理解を深めていく。
北陸新幹線開業を見据えた公共交通の検討を近隣市町と連携を図りつつ行い、利用者の増加につなげる。	嶺南地域公共交通網形成計画に定める取組み（施策）について近隣市町と協議・連携して実施したことで、公共交通の利便性向上に向けた事業を市町の枠組みを超えてすることができた。	嶺南各市町の地域公共交通会議の内容の共有や、担当者間の情報共有を今後も行い、市町のそれぞれの課題や効果的な運用を参考にしていくことで、今後も利用者の利便性の向上を図っていく。
公共交通における新型コロナウイルス感染症対策を様々なツールを用いて発信することで、公共交通の安全性を周知し、利用促進につなげる。	感染症対策の内容を記載した車内掲示（ステッカー貼付）やチラシの配布、HPへの掲載により安全性の周知を図った。	新型コロナウイルス感染症が今後も長期化することを踏まえ、感染症対策の内容を記載したチラシの配布等により、公共交通の安全性を継続的に周知していく。

### ■ 地域の特性と背景

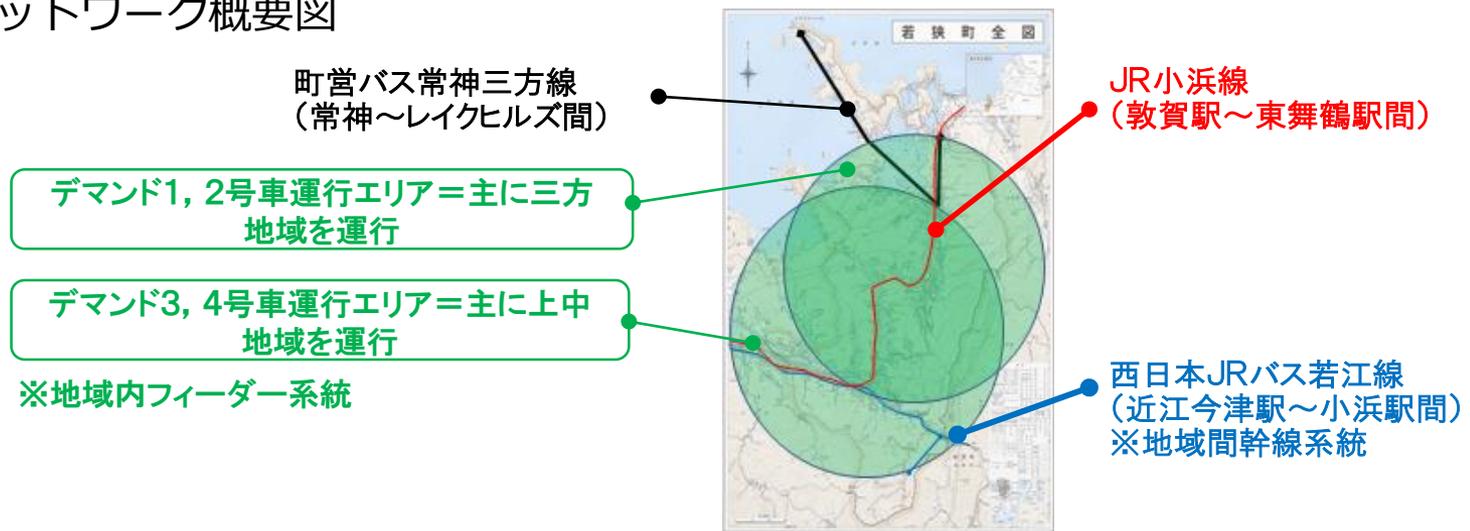
- ・若狭町は、福井県嶺南地域の中央に位置する町であり平成17年3月31日に、旧三方町と旧上中町が合併して若狭町となった。 人口：14,338人 (R3.4.1)
- ・公共交通は南北を縦断し隣接する小浜市へ繋がるJR小浜線（敦賀市～京都府舞鶴市）が幹線軸となっており、広域的なネットワークを形成している。また、地域間幹線バスとして、西日本バス若江線（滋賀県高島市～小浜市）も運行しており京都、大阪方面へと繋がる幹線である。
- ・町内の公共交通利用者は、通学に利用する中・高生と高齢者であり、勤労世代は自家用車での移動が中心である。

### ■ 計画の目指す姿・目標・期間

- ・計画の目指す姿：JR小浜線を基軸とする生活交通ネットワークの形成
- ・目標および期間：令和2年10月～令和3年9月

年間利用者数	9,000人	一人あたり経費	3,900円
収支率	10.80%	乗り合い率	1.25人

### ■ 若狭町公共交通ネットワーク概要図



### ■ 具体的取組み内容

- ・病院や福祉施設等に周知チラシの設置やスタッフへの協力依頼等を行った。
- ・行政組織の福祉や交通安全、住民窓口部署と連携し登録者の増加を図った。
- ・免許返納者への割引乗車券の配布やふるさと納税の返礼品に割引乗車券を加えることで登録者の増加を図った。
- ・乗り合い率の向上へ向け、地域の高齢者が集いやすい文化施設や高齢者向け運動施設（ゲートボール場等）への周知チラシの設置を進めた。
- ・利用希望の多い隣接市にあるJR小浜線「新平野駅」を運行エリアに加え、公共交通機関との接続を容易にすることで、利便性の向上を図った。

### ○ デマンドタクシー利用者降車場所実績

順位	降車場所	施設分類	累計 利用者数	年度別利用者数		
				R1	R3	比較
1	PLANT 2	商業施設	5,541	765	655	△14.4%
2	上中診療所	医療機関	3,898	624	583	△6.6%
3	レイクヒルズ美方病院	医療機関	2,640	430	260	△39.5%
4	レピア	商業施設	1,999	236	273	15.7%
5	関根医院	医療機関	1,963	287	237	△17.4%
6	千葉医院	医療機関	1,799	203	213	4.9%
7	パレア若狭	文化施設	958	135	42	△68.9%
8	三方診療所	医療機関	887	122	117	△4.1%
9	JR三方駅	駅	766	92	86	△14.8%

### ■計画の評価に関する考え方、評価方法

デマンドタクシーは乗り合いを前提として運行することから「年間利用者数」、「利用者1人当たり経費」及び「収支率（運賃/経費）」並びに「乗合い率」を評価指標として定めた。

### ■評価指標、目標値、実績値

自己評価結果（令和2年10月～令和3年9月）

評価指標	目標値	実績値	達成状況
年間利用者数	9,000人	7,666人	未達成
利用者1人当たり経費	3,900円	4,561円	未達成
収支率（運賃/経費）	10.80%	8.21%	未達成
乗り合い率	1.25人	1.26人	達成

### ■目標達成状況についての考察

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことから、年間利用者数が目標値より減少したことに伴い、利用者1人あたり経費、収支率（運賃/経費）についても目標値に達せず、乗り合い率を除く評価指標においては未達成となっている。

### ■今後の方針

令和3年度にコロナ禍に係る県独自の緊急事態宣言期間が3度あり、町民が不要な外出を控える動きが続き、デマンドタクシーの利用者数減少に影響を与えていると思われる。

これまで、車両内の抗ウイルス対策を実施し、安心安全に乗ってもらえることを周知してきたが、今後も安全対策の周知だけでなく町の広報誌やHPを中心に定期的にPRを行い、また高齢者の集まるサロンや会合の場で随時利用を促していくことで、当面はコロナ禍前の利用者数を目標値にしていく。

※上記、自己評価について令和4年1月11日に公共交通委員と協議した。

### ■目標の達成状況に関する課題

新型コロナウイルス感染症に係る県独自の緊急事態宣言もあって町民の外出自体の減少があったと考えられる。デマンドタクシーは乗合いによる利用という認識もあり、年間利用者数についてはコロナ禍の影響を大きく受け、減少することとなった。

今後も、車両内の抗ウイルス対策を実施済みであることを周知しながら、以前までの利用者数を当面の目標として、登録者数の向上、乗合い率の向上についての取り組みを引き続き進めていく。

### ■公共交通ネットワークに関する課題

若狭町の公共交通は、JR小浜線を幹線軸として、町営バス常神三方線、西日本バス若江線があるが、それぞれがJR小浜線の三方駅、上中駅のみに接続しており、利用できる公共交通の選択肢は少ない。またR3.10月にコロナ禍の影響からJR小浜線ダイヤの減便が行われている。

このような状況下で、デマンドタクシーの担う役割は大きく、今後、策定予定である地域公共交通計画で、より利用者にとって利便性の高い交通手段となるよう検討を進めていく。

### ■公共交通ネットワークの維持に関する対策

デマンドタクシーの利用者のうち、全体の約9割が65歳以上の高齢者の利用となっている。内訳として、80歳以上が約7割、65歳以上80歳未満が約2割を占めていることから、自家用車を持たない高齢者の利用が多いと考えられる。

デマンドタクシーの周知については、運転免許所有者が65歳以上の高齢者の約7割にあたる3,300人いることから、運転者講習会等により、自家用車以外の交通手段としてのデマンドタクシーの周知を図っていく。

また、R3.10月から利用希望の多かったJR小浜線の「新平野駅」（小浜市）を運行エリアに加えたが、引き続き、利用者からの意見を取り入れながら応えられる対策を行い、利便性の高い交通手段にしていく。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月11日

協議会名: 若狭町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
(有)オオギ観光タクシー 大和交通(株)	デマンドタクシー(三方地域発便) デマンドタクシー(上中地域発便)	免許返納者への割引乗車券の配布やふるさと納税への返礼品に割引乗車券を掲載することで、高齢者層へのPRをさらに進めることや、要望の強かった隣接市のJR駅をエリアに加えて利便性を高めることで、利用者数の向上を図る。	A 計画通り適切に事業が実施された。	B 年間利用者数 未達成 目標 9,000人 実績 7,666人  利用者1人当たり経費 未達成 目標 3,900円 実績 4,561円  収支率(運賃/経費) 未達成 目標 10.80% 実績 8.21%  乗合い率 達成 目標 1.25人 実績 1.26人  ※新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、住民の不要な外出を控える動きが続いたことから、利用者が減少した。また利用者の減少に伴い、利用者1人当たり経費、収支率についても目標に達しなかった。	令和3年度にコロナ禍に係る県独自の緊急事態宣言期間が3度あり、町民が不要な外出を控える動きが続き、デマンドタクシーの利用者数減少に影響を与えていると思われる。 これまでも、車両内の抗ウイルス対策を実施し、安心安全に乗ってもらえることを周知してきたが、今後も安全対策の周知だけでなく町の広報紙やHPを中心に定期的にPRを行い、また高齢者の集まるサロンや会合の場で随時利用を促していく。 また、嶺南各市町の地域公共交通会議の内容の共有や、担当者間の情報共有を今後も行い、市町のそれぞれの課題や効果的な運用を参考にしていくことで、今後も利用者の利便性の向上を図り、当面はコロナ禍前の利用者数を目標値にしていく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月11日

協議会名:	若狭町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	JR小浜線を基軸とする生活交通ネットワークの形成を目的とし、JR小浜線の利便性向上、利用促進、利用者のニーズに応じた交通サービスの提供、地域住民との協働による持続性の高い取組体制づくりを目指す。